

執筆者紹介

藤本 一美 本研究所研究参与

高梨 健司 本研究所客員研究員（2020. 3 任期満了）

〈編集後記〉

2020年4月は新型コロナウイルス（COVID-19）の感染拡大のため緊急事態宣言が出されました。この影響を受けまして社会科学研究所（以下、社研）も以前とは異なる状況のもと、事業運営を迫られることとなり、年度開始直後から1年間を見通すことが困難な状況にあります。このような中、社研の事業の1つである月報の刊行につきましても不安がございましたが、二人の方からご投稿いただきまして、無事、刊行する運びとなりました。ご執筆いただきましたお二人には心より感謝申し上げます。この場を借りまして、簡単ではありますが、論文のご紹介をいたします。

藤本論文は、第二次世界大戦後の青森県弘前市長選に関する論考です。『陸奥新報』や『東奥日報』の記事、具体的には、選挙戦の様態、社説などを用いて分析しています。選挙当時の財政や経済情勢、立候補者の保守と革新の攻防などについても触れ、最後に4つの政権交代パターンを抽出されています。

高梨論文は、『社会科学年報』第48号所収（弊研究所刊行）論文で分析した39名に加え、新たに入手できた片倉越後製糸株式会社の株主情報42名分を追加し分析した論考です。年報48号では大株主を中心に分析されていましたが、本稿では、中小株主に焦点を当て、株主一人ひとりについて、片倉越後製糸との関係性、株式保有数、職業、資産状況などを示し、当時の片倉越後製糸の業績と地域経済での役割や、多くの株主が抱いていた使命感について考察されています。

皆様にご高覧いただければ幸いです。

(N.S.)

2020年4月20日発行

〒214-8580

神奈川県川崎市多摩区東三田2丁目1番1号 電話 (044)911-1089

専修大学社会科学研究所

The Institute for Social Science, Senshu University, Tokyo/Kawasaki, Japan

（発行者） 宮 寄 晃 臣

製 作 佐藤印刷株式会社

東京都渋谷区神宮前2-10-2 電話 (03)3404-2561
